

第7回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議 会議録（ダイジェスト版）

令和3年10月22日、西脇市役所（大会議室）において、「第7回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議」を開催しました。

会議では、第6回検討会議のテーマ「適正な学校配置」に関する協議に際し、西脇市における「学習環境規模適正化に係る基本的な考え方（案）」及び、市が提案する「学級・学校規模を踏まえた学校配置（案）」について説明し、意見交換を行いました。

第6回検討会議の意見整理

とき：令和3年7月21日
ところ：西脇市役所 大会議室

第6回検討会議では、「学級・学校規模を踏まえた学校配置」をテーマに委員から様々な意見が出されました。出されました意見を次のとおり整理し、今後の協議に反映していくことを確認しました。



1 「学校選択制」の導入について

～委員からの意見・回答～

○ 就学する学校を選べる「学校選択制の導入」について

- ・ 転入学する子ども数が直前まで見通せず、教員の配置や採用等に支障が出る。
- ・ 年度ごとに変わる学校選択行動により、学校運営が不安定になる。
- ・ 学校や関係者に関する風評や噂によって、保護者の学校選択行動が左右される。
- ・ 子どもや保護者の学校・地域における人間関係等にねじれが生じる場合がある。

代替案として…

- ・ 大人の意識として「学校選択」ではなく「学校参画」が大切
共に学校を良くしようとする意識・体制づくりが大切
「コミュニティースクール」等の制度導入の検討

2 「小規模特認校」について

～委員からの意見と回答～

○ 小規模特認校の扱いをどうするのか。

- ・ 子どもの「学びの質」確保を求める保護者ニーズに応えられるかが課題である。
- ・ 年少人口の減少に伴い、複数の学校で複式学級編制に陥る可能性が生じている。
- ・ 全ての地区・校区において、人口減少が生じている。
- ・ 小規模特認校を例外とせず、市内全小中学校を対象にした適正化を検討する。

3 「学校校区の見直し」について

～委員からの意見と回答～

○ 各学校の人数を平準化する「学校校区の見直し」について

- ・ 学校校区の変更・見直しは、混乱を招く可能性がある。
- ・ 大きい集団・小さな集団を、学習場面・内容によって選択できる規模が良い。
- ・ 引き続き「適正な集団規模」について議論を重ねていく。

適正な学級・学校規模と適正配置に伴う通学条件（案）について



大人数で登下校するのならば、4キロの通学でも問題ないかもしれないが、少人数だと、短い距離でも子どもたちの登下校に不安がある。

徒歩で通学することは、運動になったり、交通ルールを覚えたりする良い機会ではあるが、安全面を考慮するとバス通学も手段の一つである。



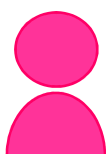
適正な学級・学校規模と適正配置に伴う施設環境（案）について



子どもたちのこと、人口が減少していること、市の財政的なこと、市の将来のことしっかりと考えなければならない。

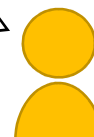


第2回先進地視察研修報告（加東市小中一貫教育・義務教育学校）



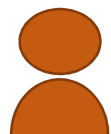
適正配置・学校環境を検討していく中で、義務教育の9年間の区分けを改めて考えるチャンスだと感じた。

加東市では、小中一貫教育の「四・三・二制」を導入されていたが、西脇市も検討してみてもどうか。



東条学園では、10年先まで学年2クラスの確保が可能と想定しているが、西脇市では、中学校区で2つの小学校を統合しても学年1学級。中学校区を単位とする学校再編をどう考えるべきか悩みどころであると思う。

先進地視察に行って、近隣市町との差別化を図るチャンスでもあると感じた。加東市は施設一体型小中一貫校という非常に大きな学校ができたが、西脇市の特色として違うパターンを検討できれば、西脇市にとって大きな魅力になるのではないだろうか。



先進地視察に行って、子どもは一定規模の児童生徒数の中で育つという想いを強くした。個人的には、ある程度の児童生徒数を確保する方向で進めてほしいと考える。